

8月17日

テーマ：「心のきよい者は幸いです」

聖書箇所：マタイの福音書5章8節

◆今日のみことば

心のきよい者は幸いです。その人は神を見るから。マタイの福音書5章8節

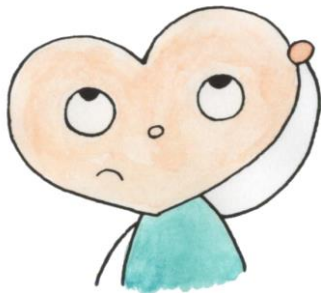
◆メッセージ

神社には、これからお参りをしようとする人が身をきよめるために、入り口近くに手水（ちょうず）で手を洗ったり口をすすいだりする場所があります。イスラム教でも、手やからだを水で洗ってけがれをきよめます。どの宗教を信じる人々も、神さまに会うには、自分をきよくしなければいけない、という思いがあるようです。

イエスさまの時代の多くの人々も、神さまに近づくために身をきよめようと、水で手やからだを一生懸命洗っていました。確かにからだの外側は、水で洗えばきれいになります。でも、イエスさまは、まことの神さまにお会いするには、外側よりも「心のきよさ」が大事だとおっしゃるので、では、どうしたら私たちは「心がきよい者」になれるのでしょうか。そもそも私たちは罪人な



のに、心のきよい者になれるのでしょうか。ひよっとすると「完全にきれいな心になるなんて、僕／私にはムリ」とあきらめてしまうかもしれませんね。



けれどもイエスさまがおっしゃった「きよい」というのは、「まじりけがない」という意味です。うそや間違ったものが混じっていない、ということです。ですから、心のきよい者というのは、自分の心をまっすぐに見つめて、罪があったなら、隠そうとして嘘をつくのではなく、正直に神さまに申し上げることができる人のことです。もしかしたら私たちは、神さまに自分の罪をお話ししたら、もう赦してもらえないんじゃないか、と思うかも知れません。でも、まことの神さまは、正直な人を喜んでくださいます。そして、イエスさまの十字架によって、どんな罪もゆるしてくださる方なのです。心のきよい、正直に神さまの前に出られる人は、罪や過

ちをゆるさない偽物の神さまではなく、私たちが愛してくださる、恵み深いまことの神さまを見ることができ、つまり神さまにお会いできる幸せな人なのです。



◆お祈り

「外側を気にするよりも、心の中の罪も隠さず、神さまに正直にうちあけることができますように。」  
(楢形キリスト教会牧師 茅場玲)